

令和元年度第2回高松市子ども・子育て支援会議 事前に提出いただいた御意見等

No.	御意見・御質問等	回 答
1	<p>資料1の6頁について</p> <p>「妊娠・出産から子育てまでの切れ目のない支援の充実」の基本方針の3つ目、「健康教育、相談事業を充実し、乳幼児の疾病や発達異常の早期発見に努める」の中の「異常」という言葉を、他の言葉に変えていただくことは可能か。</p> <p>例えば、「発達の遅れ」や「発達の気になる児」など。子育て中の保護者が読んでも傷つかない表現にさせていただけるとありがたい。</p>	<p>「健康教育、相談事業を充実し、乳幼児の疾病の早期発見や発達状況の確認に努める」と変更します。</p>
2	<p>資料1の6頁について</p> <p>「妊娠・出産から子育てまでの切れ目のない支援の充実」の基本方針の2つ目「産婦が正しい知識を身につけ、新生児の健全な発育を促す産後ケアを推進」とあるが、妊娠中のカップル（夫含め）が正しい知識を身につけることが産後の夫婦で力を合わせて子育てをしていくことにつながると思うが、ここでの記載は産婦（女性限定）になっているが夫の存在についての記載はしなくてよいか。</p>	<p>該当部分の記載については、「産後ケア事業」について説明したものとなっています。</p> <p>この事業は、国の母子保健医療対策総合支援事業の実施要綱に基づいて行われており、実施要綱には、「退院直後の母子に対して心身のケアや育児のサポート等を行い、産後も安心して子育てができる支援体制の確保を目的とする。」と定められています。また、対象者についても「褥婦及び産婦並びにその新生児及び乳児」となっていることから、本市の産後ケア事業についても、産婦のみの記載となっております。</p> <p>一方、夫婦を対象とした事業としましては、資料2の74頁「はじめてのパパママ教室」を実施しております。</p> <p>ご提案いただいた視点につきましては、資料2の73頁「家庭における教育力の向上」の基本方針に盛り込むことを検討してまいりたいと存じます。</p>

No.	御意見・御質問等	回 答
3	<p>資料1の7頁について</p> <p>「児童虐待防止対策の充実」に係る「主な取組」に利用者支援事業を記さなくてよいか。 （「子ども家庭総合支援拠点」以下4つ事業があるが、その下に記載するなど）。</p>	<p>今月、計画策定等について規定する国の指針が改正され、児童虐待防止に関して利用者支援事業や地域子育て支援拠点事業に言及する規定が追加されました。「児童虐待防止対策の充実」に係る主な取組に位置付ける事業については、今後、改正指針を踏まえ、検討してまいりたいと存じます。</p>
4	<p>資料1の8頁について</p> <p>「多様な保育事業の提供」に係る「主な取組」にファミリー・サポート・センター事業は含まなくてよいか。</p>	<p>ファミリー・サポート・センター事業を「多様な保育事業の提供」に係る主な取組の1つに位置付けることとしております。 今回の資料は素案であり、主たる事業を抜粋・掲載しております。</p>
5	<p>資料1の9頁について</p> <p>「子育て支援のネットワークの充実」に係る「主な取組」に「地域子育て支援拠点事業」は含まなくてよいか。</p>	<p>地域子育て支援拠点事業については、その目的に、保護者間の横の繋がりを生むことなども含み、子育て支援のネットワークの形成に直接関係するため、当該事業を「子育て支援のネットワークの充実」に係る主な取組の1つに位置付けます。</p>
6	<p>資料2について</p> <p>どこに入れるべきか分からないが、次代の親を育てるという視点をどこかに盛り込んでほしい。 また、取り組み事例として中学生の赤ちゃんふれあい授業を盛り込んでいただきたい。</p>	<p>次代の親の育成に関する事業については、資料2の60頁「施策の推進内容（4）体験学習活動・地域活動の充実」に係る主な取組として位置付けております。 具体の記載は、61頁「②交流・ふれあい体験の提供、次代の親を育成する体験学習の推進」として取りまとめておまして、基本方針にも、「次代の親を育てる」という視点を盛り込むことを検討してまいりたいと存じます。 なお、今回の資料は素案でございまして、「主な取組」には現在実施している事業を抜粋して掲載しており、法定事業以外の実施事業については、今後作成する計画案の中で示したいと存じます。</p>

No.	御意見・御質問等	回 答
7	<p>資料2の63、64頁の虐待予防について</p> <p>地域子育て支援拠点は、現在、国や行政関係の会議等でも「虐待予防」としての位置づけについて大きく言われるようになってきた。</p> <p>虐待予防の観点から子育て家庭を孤立させない、地域に居場所を作る、という意味では、非常に拠点の果たす役割は大きいと感じているが（実際にはその意識機能をなしていないところもあるかもしれないが）、啓発の意味も込めて、ここに拠点や利用者支援事業を盛り込むことはできないか。</p>	<p>今月、計画策定等について規定する国の指針が改正され、児童虐待防止に関して利用者支援事業や地域子育て支援拠点事業に言及する規定が追加されました。「児童虐待防止対策の充実」に係る主な取組に位置付ける事業については、今後、改正指針を踏まえ、検討してまいりたいと存じます。</p>
8	<p>資料2について</p> <p>どこに盛り込むべきか分からないが、行政の子育て支援が充実することと反比例して地域で自力で頑張っている目的を持つ子育て支援団体（例えばひとり親支援のサークルやアレルギーの子を持つ母の会、未熟児で生まれた子の会や障害を持つ親の会など）の力が弱体化してきている。</p> <p>そのような中でも、例えば双子育児の会やひとり親・ステップファミリーを支援している自主（任意）団体も存在する。</p> <p>そうした団体を後方支援する意味でも、「（特に個別の目的を持った）地域の子育て支援団体のバックアップ」みたいな事業は検討できないか。</p>	<p>子育てに関する団体等の支援については、資料2の86頁「施策の推進内容（1）子育てを担う人材の確保・育成と団体等への支援の充実」に基本方針として盛り込んでいるところであります。</p> <p>ご提案いただいた事業につきましては、今後、どのような支援が可能かを検討してまいりたいと存じます。</p>
9	<p>資料2の29頁のグラフにおいて、就学前児童や小学生の保護者が気軽に相談できる人として答えた割合をみると、祖父母、友人・知人に比べて、幼稚園や保育所、学校の先生もそうだが、市の相談窓口などがかなり低い。</p> <p>資料2の40頁の「高松市の子どもや子育て家庭を取り巻く主な課題」において、2016年から各地区に「子育て世代包括支援センター」を設置して相談支援を行っていると言われていたが、その効果が表れていないのではなはいか。もっと身近に感じられるようなセンターの支援方法をみんなで考えていかねばと思う。</p>	<p>子育て世代包括支援センターでは、平成29年度より、妊娠届出時に専門職による面接を妊婦全員に行っており、支援が必要な方を早期に把握することに努めています。</p> <p>また、毎年、子育て世代包括支援ネットワーク会議を開催し、医療機関や子育て支援コーディネーター、幼稚園・保育所等との連携強化を図っています。</p> <p>妊婦・乳幼児の相談やコーディネート件数は年々増加傾向であり、今後も子育て世代包括支援センターの活動の周知を含め、より一層、機能を強化し、相談者に寄り添った切れ目ない支援を目指してまいりたいと存じます。</p>

No.	御意見・御質問等	回 答
10	<p>子どもたちが成長していく上で起こるいろいろな問題を解決する一つの方法として、幼・保・小・中学校で、こぼれることなくきちんと教育することが重要だと常々感じている。小学校からの英語教育も大事かとは思いますが、日本語・日本の習慣についても普段から教えるという基本が大事だと思う。</p>	<p>就学前教育においては、0歳児から生活リズムを重視した、排せつ・清潔・睡眠や食育を基盤にした保育教育を行っており、基本的な生活習慣を身に付けられるような援助を行っております。さらに、施設内外で、子どもたちが四季折々の伝統文化に触れたり、毎日の絵本等の読み聞かせを通して、豊かな経験を重ねられるよう、教育保育を行ってまいりたいと存じます。</p> <p>日本語の指導につきましては、来年度から実施される小学校新学習指導要領においても、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素として、語彙を豊かにする指導の改善・充実を図るよう示されており、各学年において、系統的に語句への理解を深める指導を行ってまいりたいと存じます。</p> <p>また、伝統文化に関する学習も重視されており、第1学年及び第2学年の新しい内容として、長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くよう指導してまいりたいと存じます。</p>
11	<p>女性の年齢別就業率の推移において、晩婚、晩産化が進み、30～39歳のM字カーブは穏やかになっているが、幸福度が上昇しているか危惧するところである。特に、高齢出産の女性が孤立化している現状があり、育児の援助やキャリアに対する悩みの受け皿を充実させることが重要と思われる。</p>	<p>保健センターにおいては、妊娠届出時の面接で、高齢出産や産後の育児支援の少なさが予想される場合など、支援が必要と思われる妊婦には、早期に介入しているほか、はじめてのパパママ教室などの利用できる事業の紹介等を行っております。</p> <p>また、医療機関や子育て支援コーディネーターとも連携し、育児の孤立化防止に努めています。</p> <p>男女共同参画センターでは、女性の継続就労や再就職などを支援するため、女性の就労相談窓口において、キャリアプランに関する相談や育児など働く上での不安や悩みに関する相談を専門的な知識や経験を有する相談員が対応しています。</p>
12	<p>子どもの医療等に対する支援の充実について</p> <p>現在、子ども医療証により小学校を卒業するまで、医療費を助成して頂いているが、中学生も対象にして頂けるとありがたい。</p> <p>以前、高松市で検討されていると新聞で拝見した記憶がある。実現していただきたい。</p>	<p>令和2年度から、中学校卒業時まで通院医療費助成を拡大することとしており、実施に向けて、鋭意、準備を進めてまいりたいと存じます。</p>